

## 創立記念日について(120周年)

2月1日は、岸和田市立朝陽小学校の創立記念日です。今年は、学校が生まれて120年目にあたります。

明治35年(1902)4月1日岸和田沼野村尋常小学校としてそれまで通っていた岸和田尋常小学校から独立し、沼町と並松町の境目に創立されました。明治35年11月には岸和田朝陽尋常小学校となり、大正7年(1918)、現在の場所に移りました。

大正11年(1922)には岸和田に市政がしかれ、大正12年(1923)2月1日には校名も岸和田市立朝陽小学校と変わりましたので、この日を創立記念日と決めました。そして、昭和16年(1941)に岸和田市立朝陽国民学校となり、昭和22年(1947)に今の名前「岸和田市立朝陽小学校」になりました。昭和32年(1957)4月1日には火災にあい、校舎のほとんどが焼けてしまいましたが、岸和田市や校区の人々の大変な努力によって鉄筋コンクリートのりっぱな校舎が、翌年の3月に再建されました。その後、岸和田市学校教育施設耐震化計画に基づき平成21年度(2009)より再度校舎建て替え工事を行い平成24年(2012)に完成しました。平成24年2月4日には、創立110周年と竣工の記念式典を盛大に行いました。学校は災害時に地域の人々の応急避難場所としての役割をも果たします。平成24年10月1日に本校は津波避難ビルに指定されました。

創立のころは、児童数222人、教職員4人の小さな学校でしたが、だんだん児童数は増えてきて、昭和33年(1958)には、37学級、1850人になりました。しかし、この年を境に児童数は減りはじめ、現在(令和4年(2022)2月1日)では、18学級、454人になっています。

また、本校を卒業していった人は19,113人になり、社会のいろいろなところで活躍し

ています。さらに、朝陽小学校が今のようになるまでは、PTAのかたがた、先輩の人たち、校区の人々が力をあわせ、たいそう苦労されたことを知っておいてください。そして『共に学び、共に伸びる子ども』という朝陽小学校の目標のように、なかよく助け合い、いきた学力を身につけるように、ねばり強く頑張らしましょう。

## ◎「朝陽小学校」という名前の由来について

120年前に学校ができたころは、学校のまわりには田や畑が多く、あさひ（朝陽）が遠くのやまなみの上にのぼり、校舎を明るく照らすようすがよく見えたそうです。

これが未来に大きな希望をもって成長していく子どもが勉強する学校にふさわしい光景として人々の心に強く焼きついたのでしょう。

新しい学校の名前を決めるときに、この学校から見える太陽のようという意味で「朝陽」という名がつけられたということです。「校歌」は、昭和42年伊藤昇平作詞、河内貞二作曲で制定されました。それまでは、「朝陽子ども会の歌」が校歌のように歌われ、子どもたちもそれが校歌と思っていたようです。詞・曲ともに当時としては新しいもので、三つの部分に分かれ、始めは静かに歌いだし、徐々に感情を高めて、おしまいの『かがやくよ朝陽の庭』で力強いクライマックスが現れます。



「校章」は、昭和30年(1955)ごろにはすでに使われていたようで、中央に漢字で朝陽と書き、その上に岸和田の干、左右に二羽の鳳凰を配しています。あさひ(朝陽)と鳳凰によって、朝陽小学校の輝かしい未来を表現しています。